

北社会ニュース 第39号

2008年1月15日

発行者： 鈴木壮夫

寒さが一段と厳しくなりました。仙台で生活していた当時、毎年14日の夜、八幡神社のどんと祭に出掛けました。厚着をして出掛けても寒かったし、そんな酷寒の中でも禪姿で声を掛け合いお参りする男たちを懐かしく思い出しております。

会員の皆様、今年もよろしくお願い致します。5人の世話人にて北社会を開催し続けて、5年目に入りました。毎年同じことを言い続けておりますが、私達が世話人をお引き受けした時、「北社会」のあり方を次のように決めさせていただきました。

《会員ひとりひとりが当事者意識をさらに強め「発信・発光」する》

このあり方は会員の皆様のご協力によって、ひとりひとりのお気持ちに浸透しつつあります。和賀井大先輩のお年賀状に“今年はより一層の飛躍を期待しております”との添え書きをいただきました。世話人も努力します。でも皆様ご承知の如く、世話人だけでは限界がありますし、より価値ある「北社会」にするには会員の皆様の当事者意識が絶対必要です。講師の紹介、運営方法等々会員の義務とあって「発信・発光」をお願い致します。

(1) 和賀井敏夫大先輩、石巻市合併後第一号の名誉市民に決定と顕彰

新春を飾る素晴らしいニュースです。先週、ご本人様より万年筆で綴られた自筆のお手紙をいただき本件を知りました。妻が「先生がアナタごときに貴重なお時間を割いてお便りをお書きになるお人柄、少しでいいから見習って欲しい。でも、TOO LATEか」。先生の謙虚さは私だけでなく、二高同窓生の大きな目標です。おめでとうございます。

石 巻 日 報 新 聞

2008年（平成20年）1月1日 火曜日

新市初の名誉市民

新市になって初めての名誉市民は、社会の進歩、文化の興隆に功績のあった石巻市ゆかりの人物に贈る。受賞するのは、超音波診断装置エコーの開発者、

超音波診断装置 エコーの開発者 和賀井敏夫氏

和賀井敏夫氏（83）川崎市在住。昨年12

月の市議会で同意された。

和賀井氏は石巻市中央出身で石巻尋常高等小学校から仙台第二中学校、第二高等学校

（いずれも旧制）、新潟医科大学に進み、昭和25年に順天堂医科大学に入局。船舶の魚群探知機にヒントを得て、人体の断層像を映し出すエコーを開発した。その功績に対して紫綬褒章（昭和61年）、勲三等瑞宝章（平成7年）をはじめ多くの章（賞）が贈られている。合併前の旧石巻市は昭和61年、和賀井氏を市政功労者として特別表彰している。

土井喜美夫市長は新市初の名誉市民に選んだ理由を「地道な研究の積み重ねと、成功への信念を支えたのは、患者を思う心と生命尊重にはかならない。その偉業と功績は本市の誇り」としている。

(2) 来月の北社会開催 2月18日(月)

講師：遠山文雄氏(高13回) 東海大学工学部
工学研究科 航空宇宙学専攻

タイトル：「大学発に衛星開発時代」

－産学連携と地方の躍進に見る工学教育－

(概要) 「もの作り教育」が叫ばれる中、中小企業と大学、特に学生を主体とする衛星の開発が大学・地域ぐるみで過熱してきた。宇宙工学の教育現場からの現状と問題点を探る。

《遠山氏の講演は中鉢龍範氏(高13回)のご尽力によるものです》

(3) 「同窓会報」について

昨年12月1日発行・第40号をお読みにになったと思います。読後感は如何ですか。3頁に“会報作成にご協力を”との編集者からのメッセージが掲載されていました。現状は二名の理事と二名の教師(二高卒業生)の四名で編集業務に携わっている。会報を盛り上げるために会員の寄稿・投稿をより多く増やしたいそして編集に興味ある在仙の会員に手伝って欲しいとの要望が書かれております。興味を抱かれる方は是非このメッセージを再読して、ご自身の意見を事務局に投稿して下さい。私も今月中に思っていることを整理して投稿します。私は各地方支部や卒業回期毎の集まりの様子はその参加者と該当者だけの関心事で会報に大きなスペースを取るべきではないと思っております。会員の寄稿・投稿を待っているのではなく編集者が会報で“何を”をテーマにして全国の約15,000人の会員に知らせることが最も大事な編集方針だと思っております。今、その“何を”は昨春から始まった共学だと思っております。共学になって二高はどうなったのか、第40号では全く触れておりません。共学開始をテーマに編集者が校長・担任の教師・男女生徒等々に感想を寄稿するよう働きかけるのが会報の「今日的役割」と私は思っております。

【お知らせ】北社会会員・庄子信氏(高11回)が経営する(有)三九出版が一冊の本を売り出しました。

《叱言集 オレ達にもいわせてヨ》 定価1400円

人生のベテランが呈する、世直しのための苦言！提言！

あなたも耳が痛くなるかも？

11章 120の「叱言」を収録。この中の一つにでも耳が痛くなった人は今から心と言動を改めてください。＝本の帯から＝

伊沢逸平氏(高12回)の協力で八重洲ブックセンターの一階に平積みされています。